

ボクらと一緒に遊ぼう！

我孫子の 保育施設 寄贈の縫いぐるみ活用

ボクらが待ってるよー。
我孫子市は、人気の縫いぐるみシリーズを手掛ける「大洋産業貿易」(横浜市)から、パンダやペンギンなど愛らしい動物の縫いぐるみ約190体の寄贈を受けた。今月から我孫子市内の保育施設に配布し、新しく入園する子どもの不安解消に役立つ。

リースを販売。世界各国に生息する希少種や、毛並みや細部の特徴を再現したこだわりの縫いぐるみは、全国の動物園や博物館、水族館などで取り扱われている。

今月から市内の公立保育園や子ども発達センターで活用。新しい環境に不安を感じている新入園児や、施設を利用する子どもの「遊び相手」を務める。

昨秋、同シリーズに加わった市の鳥「オオバン」の縫いぐるみを製作する際、市鳥の博物館の学芸員が監修に協力したことが、今回の寄贈につながった。同社の担当者は「子どもの笑顔につながる素晴らしい」と話している。

同社は、哺乳類や鳥、魚などさまざまな動物を縫いぐるみ化した「100+1(ワンオーワン)」シ

寄贈を受けた縫いぐるみは、子ども人気が高いウサギ、コアラ、パンダ、シロフクロウ、フンボルトペンギン、シマリスの6種類。いずれも約20〜30センチで、未就学児でも遊びやすいサイズになっている。



寄贈を受けた動物の縫いぐるみ＝我孫子市役所